

な か ま

福岡県知的障害者施設保護者会連合会 会報

発行
福岡県知的障害者
施設保護者会連合会
(略称：福施連)

編集
広報委員会

〒812-0854
福岡市博多区東月隈
3-1-4-106



開会式
は、愛施連
山本会長
の開会宣
言に始ま
り、全施連
由岐理事
長の主催
者挨拶、愛
知県知
事・豊橋市
長・衆議院
議員・日本

第10回全施連全国大会 in 愛知が、平成26年10月21日～22日に豊橋市のロワジールホテル豊橋で開催され、全国各地より約500名(福岡県から15名)が参加しました。本大会は「知的障害を持つ人の生涯を考える―その人に合った終の住処はどこですか?」をテーマに全員参加型討論方式で、50個の円卓を各10名ほどで囲み議論を交わす形で行われました。

望ましい新しい施設を!

施設・関係者・家族協働で

全施連 大会 in 愛知

知的障害者福祉協会副会長の来賓祝辞がありました。

由岐理事長からは「今大会が10回目という記念すべき大会である」との感謝と活動の決意が述べられ、情勢報告後、大会テーマに関する鼎談や討論会が始まりました。

鼎談では、北九州市立大学の小賀久先生・埼玉大学の宗澤忠雄先生・社会福祉法人愛心福祉会常務理事の福田和臣氏の3名の講師より様々な観点からの問題提起がされました。

▼65歳問題や入院3ヶ月問題のある今、望ましい新しい施設に変えていくために施設像をより明確にし、施設・関係者・家族が協働で取り組まなければならない。

▼日本は障害者権利条約批准国となった。権利条約は、全施連の提言と符号するものもあり、今後武器となる。

▼終の住処Ⅱ生活の場Ⅱどう生活を豊かにするか、本人の望む生活や家族の考えをどこまで保障するかが重要である。

鼎談を受け、各卓毎に全施連・市町村・保護者会が取り組むべき課題について討論しました。

翌日、初日の討論内容の発表を10卓の代表がそれぞれ行いました。

最後に、由岐理事長と南副理事長は、全施連として終の住処の具体像作りと3ヶ月問題等が重要な課題であるとまとめられ、大会宣言を採択、本大会を終了しました。

全施連理事会報告

平成27年2月9～10日の2日間、全施連26年度第3回理事会が大阪市で開催されました。

由岐理事長は挨拶のなかで「権利条約は批准されたが不十分だから、差別解消法や虐待防止法が出来ても安心出来ない現状だ。全施連独自の見解を早くまとめて、目指す目標をきちんとすべきだ」との見解を示されました。

議案は、全施連の要望活動のあり方や成年後見人制度への見解のまとめ、27年度事業計画、役員改選案、会計・決算案、愛知大会報告、横浜大会準備経過報告などを審議・承認して2日間の会議を終了しました。

●今年度総会と第一回理事会

6月9～10日に大阪市で開催予定

親亡き後の我が子らに役立つのか 「成年後見人制度」

研修会

平成27年2月1日(日) 26年度第2回研修会が、福岡県総合福祉センタークロアンプラザにて「学んでみよう! 成年後見人制度」というテーマで小賀久氏(北九州市立大学教授)を講師に迎え開催されました。

今回も福岡県知的障害者福祉協会・とびうめ知的障害者生活サポート協会との共催で、木高福祉協会会長から「福祉連と福祉協会は手を携えてより良い環境を作る努力をしたい」との話がありました。

▼成年後見人制度とは、平成12年4月1日の民法改正で「禁治産者」が廃止され「成年被後見人」となり、制度の対象者として知的・精神障害者及び認知症高齢者であることを事例に挙げての説明がありました。

▼その後「日常生活支援事業」と「成年後見人制度」について具体例を示しての比較説明があり、特に社会福祉協議会の活用については真剣にメモをとっている参加者が多くみられました。

▼成年後見人の任期が「判断を取り戻すか亡くなるまでであり、辞任は家庭裁判所が正当な事由と認めた場合」との話が

あった時は、会場からため息が漏れ、この制度に対する問題点の一つであると思われました。

▼質疑応答では、成年後見人がその資質を疑われる場合もあり、信頼関係を築くのは困難なことや、具体的事例を挙げての発言が参加者から多くあり、制度に対する理解の一助となりました。

アンケートでは「全くと違っていろいろ勉強不足だったが事例が多くよく理解できた」「パンフレットに初歩的参考書があれば記載して欲しい」「参考にはなっ



熱心に聞き入る参加者の皆さん

来年度の

方針案決定

理事会

たがどれから手を付けていいのかかわからない」等この問題に対する関心の深さが伝わってきました。

今回も議会、行政、施設関係者から多くの参加があり盛況でした。

平成27年3月27日クロアンプラザにて19団体の参加で開催されました。

初めに八木会長から次のような直近情勢報告がありました。

「新聞テレビの報道では、国の平和憲法を解釈変更しいつでも他国軍と戦争に参加できるように安倍内閣は急いでいますが、私たちは、国連の障害者権利条約に沿って、障害者福祉が向上するように活動することが重要だと考えます」

◎活動の経過報告は、各委員長が分担して発表しました。

◆奥行政対策委員長からは、福岡県障害者福祉長期計画作成についての会議に参加、初めて意見書を提出した事、さらに北九州市・福岡市・宮若市行政と意見交換をしたとの報告がありました。

◆庄山組織委員長は、今後も福祉協会と研修会を共催して、未加入保護者会にも案内を発送、福祉連への加入を薦めたいとの報告があり、新しい保護者会

の加入も見込まれているとの報告でした。

◆小田部研修委員長から、今年度の研修会についての報告がありました。

第1回研修会は、初の取り組みとしてシンポジウム形式で活発に議論が交わされました。

また第2回研修会は、前回のアンケートをもとに「成年後見人制度」をテーマに、北九州市立大学小賀教授の講演を実施、質問時間も足りないほどの盛況でした。

◆井本広報委員長からは、広報「なかま」には福祉連の主な会議や行事・保護者の活動や商品紹介をしていること、完成までには4回の編集会議を重ね、作成しているので、全会員に必ず届くよう努力して欲しいとの報告がありました。

◎次に26年度決算報告・27年度予算案が承認され総会に諮ることになりました。

八木会長から27年度活動方針の重点取組事項の説明があり承認されました。

また、奥副会長から全施連福岡大会についての準備状況の説明があり、最後に常任委員会、ことの分散討議と結果報告で閉会しました。

請願採択!

自民党議員の紹介で 大牟田市議会

平成27年3月11日、大牟田市議会において、福祉連提出の「知的障害者が安心して暮らせる入所施設の開設を求める政府意見書の提出についての請願」が一部議員の反対はありましたが賛成多数で採択されました。

前回(平成23年度)も請願をしましたが、議会の多数会派の反対があり不採択となっていました。

今回の請願活動はその反省をもとに議会の最大会派の自由民主党市議団8名と事前(平成26年12月)に意見交換会を行いました。当日は福祉連から八木会長はじめ、近郊の有明ホーム・大牟田ワークショップセンター・生活支援センターこすもす・蓮の実園・第二赤坂園・養徳苑の6施設の保護者14名が参加して、全施連の統一4項目について説明しました。

また、施設利用者および保護者の現在の悩み・問題・要望等も強く訴えました。議員団からは異論もなく賛成するので

請願提出を急ぐよう促されました。

今回の請願書提出にあたっては自由民主党議員が紹介者となり、率先して手続きを進めてもらいました。

初めて自由民主党議員の紹介を得ることができたことで、福祉連としては画期的な、また「全施連」としても歴史的な一ページとなりました。

北九州市と意見交換会

施設入所者の削減表示やめて

平成27年1月14日、北九州市障害福祉課と第4期北九州市障害福祉計画について意見交換会を行いました。

市からは坂本課長・山口係長が出席され、福祉連からは奥副会長他6施設10名が参加しました。

課長の計画(素案)の説明の後質疑で、施設入所者の削減という表示は不適當だから改めて欲しい。知的障害者の施設入所者は北九州市外の施設が50%を超えているのでその親・家族も委員会に入れて声を聞いて欲しい等の要望を出しました。

その他に、サービス等利用計画のセルプランについての質問等が出たりして福岡県に続いての北九州市初めての福祉計画事前意見交換会は有意義に終わりました。

また、計画に対する意見書も提出しました。

宮若市と懇談会

障害者関係情報を

もっとくわしく

平成27年1月22日、宮若市と懇談会を行いました。

市から障害福祉係、市民生活課、税務収納課の課長、係長など計6名が参加され、福祉連から八木会長、小田部、井本副会長、市内の若宮園後藤会長はじめ宮田学園の保護者など11名が参加しました。

今回は請願4項目の主旨説明の他に、今身近に起きている法律または条例の取り扱いが市町村によって異なり、受け取るべきサービスに差異が出てきている問題等を中心に話し合いました。

- (1) 帰省中の入浴介護サービス
- (2) 障害者家庭の自動車税減免
- (3) サービス等利用計画の提出進捗状況

特に(3)については施設からすべて提出されているにも関わらず、保護者があることを知らなかった、または説明を受けていないという事実も判明しましたが、情報は家族に周知徹底するよう申し入れました。

全施連大会に

参加して

平成26年10月21日〜22日の両日で開催された全施連大会に参加いたしました。

会場はロワジールホテル豊橋であり、460人超が参加しました。

大変な熱気の中、愛知連の山本会長の歓迎の挨拶、全施連由岐理事長の情勢報告、その後3人の先生の基調鼎談を受けて始まりました。

参加者は円卓を囲み、全国の親・兄弟姉妹・支援者が話し合い、それぞれのテーブルから「我が子らが命を授かり、生まれてきて良かった」と思ってくれたい。そのため、「本当の幸せは社会がこの子らと同じ人間として受け入れてくれる社会に」そして「一生を安心できる終の住処(施設)を保障した社会」を願う全国の保護者の同じ思いに感銘し、私も頑張らなくてはと思いました。

大牟田ワークショップ保護者会
副会長 馬場 正洋



施設保護者会紹介

岡垣睦福祉会 こすもす園

私たちは毎年保護者会主催でバーベキュー大会をしています。昨年度はこすもす園主催で9月13日に納涼祭を開催しました。

施設長・職員を中心に保護者会役員で焼きそば・たこ焼き・かき氷・フライドポテト等の屋台を園庭に作り、皆さんに食べてもらい、大盛況でした。その他、利用者と職員の仮装やダンス・唄なども披露され、にぎやかで楽しい時間を過ごしました。

また、こすもす園には洗濯や餅つき大



会に参加してくださる地域のボランティアの方々30数名おられます。日頃お会いする機会が少ないので、納涼祭等の行事にお招きして、コミュニケーションをとりながら感謝の気持ちを伝えていきます。今後も、保護者と地域が一体となり、利用者がこすもす園で楽しく生活できるような協力していきたいと頑張っています。

保護者会会長 藤城 佳子

商品自慢

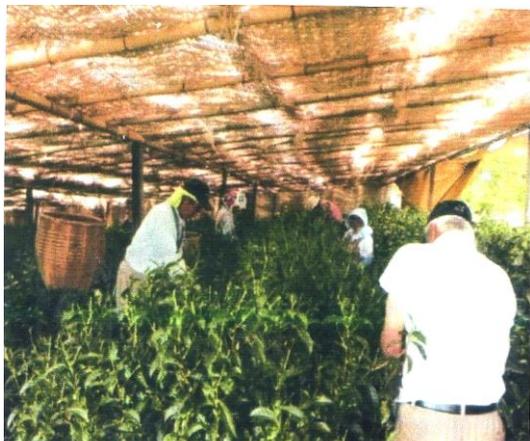
伝統本玉露づくり 城山学園

学園は八女市にあり、生産活動の一環として「伝統本玉露作り」に取り組んでいます。伝統本玉露とは、わらで編んだ《スマキ》と言われる素材を、茶摘みが終わるまで被覆したものです。遮光することで旨みが増し、独特の香りが生まれます。今では生産者も減少し、全国的にも希少価値のあるものとなっています。その手間暇かけて育てた茶葉を、一枚一枚利用者が手摘みし、施設内製茶工場で加工、販売しています。もうすぐ新茶の良い香りが町中を包み込む季節となります。ぜひご賞味ください。

玉露 百グラム 千円
煎茶 二百グラム 千円

TEL 0943-42-4016

作業中の利用者



賛助会員を募りましょう

賛助会員は、福祉連活動を理解し、応援するために、毎年一口千円以上の会費を福祉連に提供して、私たちの活動を資金面から援助して下さる会員です。

決してその時限りの「寄付」ではなく、毎年度戴く会費として位置付けて予算計上しています。

お願いする相手は、親・兄弟・従兄・友人・隣人・施設職員等々ですから、その気になってお願いすれば必ず応じて下さるでしょう。

現在、取り組まれている保護者会は少数です。全加入保護者会の皆様がこの賛助会費を集めることで、障害もつ我が子への理解の輪もつと広がります。

編集後記

やったあ！やったよね！全福祉連加盟団体のなかで、4項目請願採択は飯塚市で公明党の紹介で一番乗り、北九州市では民主党の紹介で政令市で全国初、今回は大牟田市議会でも念願の自民党が紹介議員になって下さり、3月議会で請願が採択されました。

私たちの切実な願いは、ついに政権与党の自民党の議員の方々にも理解が広がりつつあることは、闇夜に灯された明かりが少しずつ大きくなった思いですね。

貧富の格差や教育程度の境なく生まれる知的障害者の幸せづくりは、国連障害者権利条約を後盾に、願いは必ず届くことを確信し活動の糧にしたいものです。

第11回全福祉連大会

in 横浜

きそいあって参加しましょう！

場所 神奈川県横浜市
会場 ローズホテル横浜
日時 10月20日(火)~21日(水)